

2. 各大学における事業の実施

(1) 大分大学

①事業概要

(1) 年間を通した多様な「農業・食の生産体験」と地域住民との交流

大分大学では、将来の教員あるいは社会人としての資質向上を目的に、さまざまな「農作業体験」「ボランティア活動」を通して、子供たちや地域の人々と触れ合いながら、実践的指導力の養成を図っている。

具体的には、世界農業遺産にも登録された「国東半島・宇佐地域」にある院内町余谷（あまりだに）地区で農業従事者に田植えや芋植えの仕方を学ぶほか、下記の体験を行う。

- ① 稲刈り体験とともに地域の運動会での交流活動、交流コンサートの開催による地域住民との交流
- ② 地元特産の柚子の収穫の仕方や選別方法を学習
- ③ 「秋の収穫感謝祭」の実施と地元住民との交流
- ④ 地元特産の椎茸のコマ打ち体験

稲刈り体験は宿泊で行うため、濃厚な体験が提供できるものと期待できる。また、「日本型食生活」の講義も行うので、体験をより充実したものになると考えられる。

また上と並行して、玖珠郡九重町農家での農泊体験学習では、高原野菜と果物の収穫、貴重な養蜂・蜂蜜採取、さらには豊後牛飼育体験に農家・郷土料理づくり体験を加えて4軒の農家の協力により実施した。

(2) 世界農業遺産の地での「農業・食の生産体験」と「日本型食生活」の学習と料理体験を融合

大分大学では「平成 20～21 年度 農林水産省につばし食育推進事業（教育ファーム）」に取り組んだ経緯もあり、その経験を最大限に生かしながら、今回はこれまでの多様な農業体験に加えて、下記の3本の柱による「日本型食生活」のモデル化を目指した。

- ① 多様な農業・食の生産体験、（米、野菜、果物、柚子、椎茸、養蜂・蜂蜜採取、牛飼育 etc.）
- ② 「日本型食生活」とユネスコ無形文化遺産「和食：日本人の伝統的な食文化」に関わる理論学習
- ③ 「日本型食生活」に関わる料理づくり体験

とくに、これらの実践を2013年に登録された「世界農業遺産・国東半島・宇佐地域」の地で行うことは意義深く、年間を通した食の生産現場における土と水と汗の体験は、「農作物の栽培・収穫」の体験にとどまらず、「自然条件・害獣被害」の実態に関する理解、秋の収穫感謝祭における「販売作物の適切な価格設定」にも学生たちは関心や意見をもつようになる。教室では学べない体験と実感としての食と農にとどまらず、地域の方々との心の交流による学びも期待するものである。

②学生の属性

学部・学年	人数
教育福祉科学部・1年生	85名
教育福祉科学部・2年生	2名
教育福祉科学部・3年生	1名

合計：88名

③スケジュール

実施日 (人数)	タイトル	属性
6月6日(土) (34名)	・田植え・芋植えつけ	教育福祉科学部 1～2年生
9月4日(金)～ 5日(土)※宿泊 体験 (13名)	・高原野菜・果物収穫・養蜂・蜂蜜採取・豊 後牛飼育体験と農家料理づくり ・【講義(30分)】「日本型食生活」の学習(1)	教育福祉科学部 1～3年生
9月26(土)～ 27(日)※宿泊体 験(25名)	・稲刈り体験 ・南院内ふれあい運動会 ・【講義(30分)】「日本型食生活」の学習(2)	教育福祉科学部 1～3年生
10月3日(土) ～4(日)※宿泊 体験(38名)	・稲刈り体験、 ・院内町・大分大交流コンサート ・【講義(30分)】「日本型食生活」の学習(3)	教育福祉科学部 1～2年生
10月24日(土) ～25日(日) ※宿泊体験(13名)	・高原野菜・果物収穫・養蜂・蜂蜜採・豊後 牛飼育体験と農家料理づくり ・【講義(30分)】「日本型食生活」の学習(4)	教育福祉科学部 1～2年生
11月21日(土) (35名)	・特産「柚子」の収穫体験	教育福祉科学部 1～3年生
11月22日(日) (43名)	・秋の収穫感謝祭(農産物の販売)、地元住 民との交流	教育福祉科学部 1～2年生
2月28日(日) (45名)	・特産・椎茸のこま打ち体験と椎茸料理づく り	教育福祉科学部 1～2年生